

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話:070-1503-6401/044-988-0004

http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo

第132号

草創期の
柿生中学校 - 5

校舎の建設

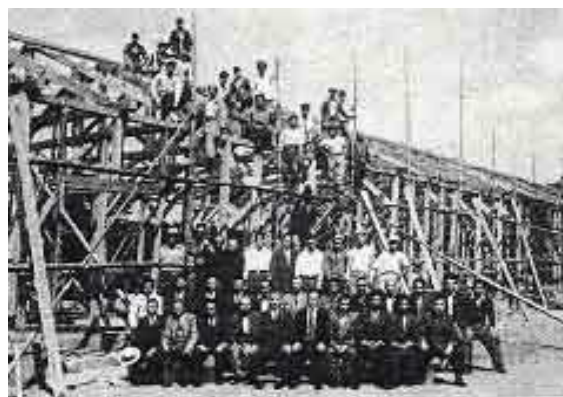
小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

始めに、少しだけ教科書の話の捕捉させてください。教科書は一部しかなかったと前号に書きました。こう書くと60歳くらいまでの方は驚かれると思うのですが、当時教科書は、保護者がお金を出して購入していたのです。学校の指定日に本屋さんで学校に来てくれて、お金と引き換えに教科書を渡してくれるのです。教科書の無償配布が始まるのは、1962(昭和37)年秋の教科書無償法の成立を待って、まず63年度に小学校の新1年生から始まり、東京オリンピックの行われた64年度には3年生まで、そして65年度に5年生までとなり、66(昭和41)年度ようやく小学生全員の教科書が無償配布となったのです。中学生については、その翌年67年から3年間をかけ、学年進行で無償化されました。ですから、貧しい家庭ではなかなか教科書が買えず、兄や姉の教科書を下の子が使うことも珍しくなかったのです。新制の中学校では、兄や姉の教科書なんてありませんから、この点は余計に大変だったようです。

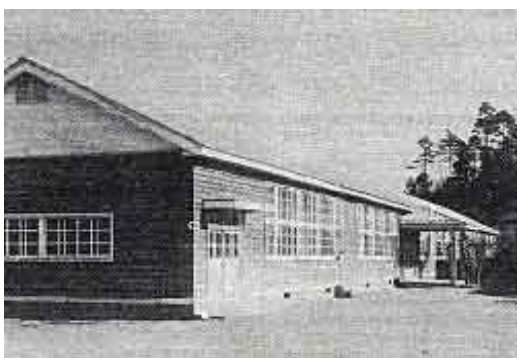
第2回に記したように、柿生中学校は柿生小学校から4教室を借り受けてスタートしました。小学校もかなりの不自由を忍んで、無理をして貸してくれたのですから、これ以上の借用はできません。しかし、1年が過ぎ48(昭和23)年度に入ると、新しい1年生が入ってきます。入学者は130名に達しましたから、当然3クラスになります。この3教室分が足りないのです。幸い廃止となった青年学校の校舎が利用できることになり、下麻生の公民館をも借用して、まるで寺子屋のようだと言いつつ、授業を受けることもあったようです。

こうなると、自前の校舎建設は、もはや待たないです。かといって、川崎市の予算がつくのを待っていたのでは、校舎はいつになったらできるのか、皆目見当がつかいません。これは自分たちで何とかしなければということになり、鈴木太郎氏を建設委員長に、校舎建設の話し合いが始まったのです。皆でお金を出し合って、業者に依頼して建設するとなると、戦後のインフレーション時代ですから、とてもそんなお金が集まる見込みは立ちません。可能なのは労働奉仕です。柿生中学校の校地は、柿生小学校に隣接する山の高台です。その山をまず整地しなければなりません。しかる後に木材その他の資材を用意して、校舎を建てるのです。黒川、岡上、早野、王禅寺、下麻生、上麻生、古沢、万福寺、片平、五力田、栗木の旧柿生村10ヶ村と岡上村の柿生中学校区の皆さんが、村ごとに当番を決めて、毎日汗だくになりながら、まずは丘陵の整地作業に精を出したのです。

勤労奉仕に出てくる皆さんには、学校とは直接関係のない方も大勢いらっしゃいます。そんな皆さんが、地元の子どもたちの教育環境は、地元で整えてやろうじゃないか。学びの場を何とかしてやろうと、頑張ってくれているのです。こうなると学校の先生方も、生徒たちも知らん顔などできようではありません。先生も生徒も一緒になって、村の人たちと共に、整地作業や校舎建設に取り組んだのです。1期生の高瀬武治さんは、「私たちは、毎日のように、男も女も村の人たちや先生方と一緒に、リヤカーを引き、モッコを担ぎ、鍬を持って整地作業に汗を流し、手に肉刺を作りながら手伝いました。」と、当時の思い出を『柿生中学校創立30周年記念誌』に寄稿しています。当時の教員として、職業科と体育科を担当した小清水貞明先生は、毎朝ゲートルに地下足袋姿で出勤し、早朝から村の人たちと共に働いていたそうです。ご本人も、「担当教科の関係もあって、仕事の大半が工事の手伝いで、毎日泥まみれで、生徒の授業はあまりできず、申し訳なかったと思っています。」と、『30周年記念誌』に記されています。若い青年団の皆さんも積極的に工事に



建設中の第1期校舎 地元の方の人海戦術



完成した第1期校舎 木造平屋建

加わっており、その頑張りには半端ではありませんでした。女性の先生や女子青年団の皆様は、きつい労働でお腹を空かす人たちにと、毎日オヤツにサツマイモを大量に蒸かしたりと、こちらも一生懸命でした。

現在のように便利な機械が使えるわけではなく、固い地盤に道具が壊れてしまうことも多く、代わりの道具の調達も大仕事だったようです。それでも人海戦術の効果は大きく、48(昭和23)年に始まった整地作業は、49(昭和24)年春には一応完了し、4月30日には校舎建設の起工式を行うことが出来たのです。ここから本職の大工さんの指導で校舎の建設です。資材の調達や管理も大変な仕事でしたが、整地作業と違って、こちらは柱が立ち、屋根を葺くと、労働の成果が目に見えるため、自然と気合が入ります。こうして同年9月5日に、初めての自前の校舎の落成式を行うことが出来たのです。(続く)

シリーズ
「麻生の歴史を探る」第102話

蚕影山信仰

小島 一也 (遺稿)

小さな蚕が口から糸を吐き、繭を作り、絹糸となって貧しい農民の暮らしを助けていく。その蚕の不思議さは多くの伝説を生み、崇められ、各地に養蚕伝承を残しています。

麻生区の黒川には、川崎市の民俗芸能に指定された「蚕影山和讃」が、地域のご婦人方によって継承保存されています。これは毎年2月初午(はつうま)の午後、蚕日待(かいこひまち)といって、蚕の供養と繭の豊作を祈って行う行事(今は行われていない)ですが、その際各自が鉦鼓(しょうこ)を叩いて唱えられるのが「蚕影山和讃」で、それは、「帰命頂礼蚕影山 蚕の由来を尋ぬれば 天竺御門のおん娘 玉よの姫と申せしは じゃけんの継母の手にかかり うつらの舟にうち乗せて とよらの港に流されし それを島人あわれみて ふびんの者と養育す ときに不思議な夢知らせ 世間の人を助けんと 蚕の虫になり給う ……」と唱えるもので、帰命頂礼とは仏に帰依する言葉で「継母にいじめれた娘が、村人の温かさに触れ、蚕になって報いた」とする内容で、「とよらの港」とは茨城県の豊浦を指し、この黒川の蚕影山和讃の会場には豊浦(筑波)「蚕影神社」の掛軸が掲げられ、お蚕由来の和讃が終えると「なにごとも 蚕の思うままにして さからわぬこそ蚕への道…」と、ご詠歌(心得の歌)を唱えて終えたそうです。

岡上の東光院の境内、大きな銀杏の木の下に、間口約3m 奥行約5m 茅葺き、入母屋造りの通称「蚕影山」と呼ぶ祠堂がありました(今は日本民家園に移され無し)。この祠堂は万延元年(1860)村民が茨城筑波の蚕影神社の神を勧請したもので、内部に納められた宮殿は文久3年(1863)造立の銘があり、そこには蚕影山大権現像と馬喰大菩薩像の2体が祀られています。宮殿外面には、金色姫(玉よ姫)の苦難の場面が4面の木彫で浮彫に描かれており、その4つの場面には、獅子の谷、鷹の山、丸木舟、お庭が表されます。蚕は4眠して繭を作りますが、4眠の過程を、獅子の並び、鷹の並び、舟の並び、そして4眠から起きた時を「庭起き」と呼ぶのにちなみ、金色姫伝説と関わって描かれたものと思われます。



日本民家園に移された蚕影山祠堂

馬喰大菩薩とは、中国の民間信仰で「蚕神」とされるもので、その由来は、「その昔、天竺の長者の娘に、“玉や姫”と呼ぶ娘がおり、長者の飼う栗毛の名馬と恋仲になってしまいます。これに怒った長者は、馬の皮をはぎ、桑の木の枝に張り付けてしまいました。姫は悲しみの日々を送っていましたが、ある日のこと、その皮は一陣の風と共に姫を包み、天空に昇って行ってしまいます。それから1年を経た同じ日のこと、天から白い虫と黒い虫が降ってきて、桑の葉を食べ、やがては白と黒が一緒になって蚕となり、長者に孝養をつくした」という伝承で、蚕が馬の歯型に似ることから「オシラ神」とも呼ばれ、蚕の守護神として崇められたのが、馬喰大菩薩だそうです。



祠堂彫刻のうち丸木舟

この岡上の蚕影山祠堂は、前述の通り、昭和45年3月、当時の岡上養蚕講中より川崎市立日本民家園に寄贈され、平成7年川崎市の重要歴史記念物の指定を受け、まつりや企画展が行われ、東光院境内には「蚕影山祠堂跡」の碑が残されています。



金程の蚕影神社

この蚕影山信仰は麻生区金程の「蚕影神社」にも見ることができます。これは明治19年(1886)蚕影山信仰の本山筑波山の麓の蚕影神社の租神を祀ったもので、碑文には「安政5年横浜開港によって鎖国は終わり貿易が始まり、輸出品の大半は生糸・絹織物で、関東一円に養蚕農家が急増し、現金収入の貴重な道を開いた。こうした中で、金程村の家々も養蚕に力を入れ、蚕を「おこさま」と呼んで愛育し、蚕の神蚕影山を信仰する心が高まった」と記され、神社勧進の由来が述べられ、開桑講社という講組織があったことが記されています。

なお、この金程の蚕影山祠堂は、当初は金程537番地、丘の中腹にありましたが、昭和61年(1986)金程向原土地区画整理事業によって、現在地(福祉センター隣)に移されますが、時は経て養蚕は全く姿を消した今日、社殿には前記由来と「この地、農村史の中で忘れえない蚕影山を後世に伝う」の碑文が残されています。

(参考文献)「くろかわ はるひ野開発地域の記録」「歴岡上の魅力再発見」「永遠の郷土(区画整理事業記念誌)」「伝説さんこんにちは(土方恵治)」

シリーズ
教育の歩み 第2部

学校の誕生と成長(2)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆ランカスターとベルの教育法◆

実際に、先生と生徒が1対1で向かい合う旧来の教授法では、1人の生徒が教えを受けている間、他の生徒たちは自分の順番が来るまで、待っていなければなりません。そこで、先生が教える代わりに、前に教えを受けた生徒が他の生徒に教えるという、相互教授法というシステムが、しばらく前から文法学校などで、実践されていたのです。ランカスター青年は、安上がりで効率的な学習法を考える中で、この相互教授法を改良しつつ利用することを、思いついたと言えましょう。前回指摘したように、ランカスターは1人のモニターが10人ほどの生徒を教えるようにし、モニターの数を増やすことで、一度に大勢の生徒を教えられるようにしたのです。

ランカスターのモニトリアル・システム、つまりクラス制は、大勢の生徒に安く、早く、読み書き計算を教え込む方法として、考案されたのです。ここに伝統的な教育の世界に、初めて効率性という考え方が導入されたのです。それはまさに資本主義社会という、効率優先社会に適合的な考え方でもあったのです。しかし、生徒が生徒に教えるわけですから、複雑な内容を教えることには無理がありました。子どもが教えることができるように、教授活動を如何に単純化するかが、重要なポイントとなったのです。ここにランカスター青年が追及しなければならなかった、大きな問題があったのです。

ランカスター青年よりも少し早い時期に、インドのマドラスに派遣宣教師として赴任していたアンドリュー・ベルもまた、「マドラス方式」と名付けられたモニトリアル・システムを考案していました。彼は宣教師の仕事として、英軍兵士と現地女性との間に生まれた混血孤児の教育を任せ、ランカスターと同様な問題を解決する必要性に迫られ、ランカスター方式とよく似たシステムを考案したのです。ここから2人が全く別々に考案したモニトリアル・システムは、考案が少し早かったベルの名前を先にして、ベル・ランカスター法と呼ばれるようになったのです。

◆ランカスター著『教育の改善』より◆

ランカスターは自己の教育法の成果を、『教育の改善 Improvement in Education』と題する著書で丁寧に説明しています。この著書は3回にわたって改訂増補されており、最も内容が充実した第3版には、次のように記されています。

- 大枠では、①生徒たちを、その進度に応じて学級(クラス)に分割、編成すること。
- ②各学級(クラス)に、モニターを配置すること。
- ③モニターが、学級(クラス)の道德、成績、秩序、清潔さの維持などに責任を負うこと。
- ④毎週と毎月の進歩、習得量、出欠の記録を取ること。

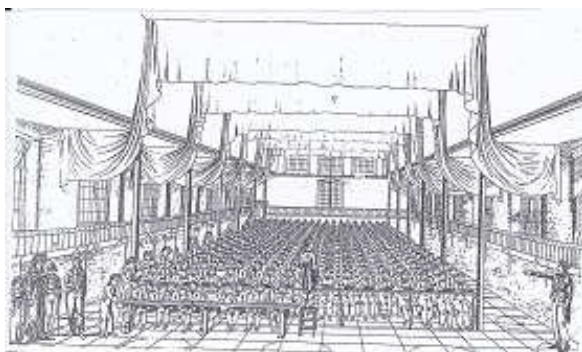
以上の4点が述べられています。その後、進度に応じたクラス編成として、読み方と綴り方の8クラスと計算の12クラスが明確にされています。右の表をご覧ください。読み方・綴り方のクラス編成は、まず日本語で平仮名を覚えるように、英語のアルファベットを学び、次に小文字と2文字の単語を学び、そこから3文字、4文字と長いスペルの単語を学んで行き、その後に旧約や新約の聖書を学ぶ形で上のクラスに進むようになっていました。日本語とは言葉の成り立ちが違いますから、わかり難い点が残るのはやむをえませんね。その点計算(算数)の12クラス編成は、日本の初等教育とほとんど同じ構成になっています。まず数字を覚えることに始まり、最初に足し算を大きな数の足し算まで習得し、次いで引き算、掛け算、割り算と加減乗除(四則計算)を学んで、分数に入る編成ですから、現在の算数教育の流れとほぼ同じです。もっとも算数については、明治の日本が国をあげて洋式算を学校教育に取り入れたのですから、同じになるのは当然でもあります。

しかし、モニトリアル・システムと現在の教育とは大きく違っていました。違いは学級(クラス)の編成原理にありました。ランカスターやベルの学校には、年齢で生徒を分けるという発想はなかったのです。生徒はすべて、どこまで理解しているのか、生徒個々の学習の進展度で、在籍すべきクラスが決められたのです。前述した

クラス分けの基準に照らして、生徒の到達度を測り、所属するクラスが決められたのです。そして審査によって、十分習得したと判断されると、次の段階のクラスに進級するのです。ランカスターの学校では、生徒の入学時期の定めはなく、希望すればいつでも入学できました。ただ学校は新入学者をどのクラスに振り分けるかを定める必要がありますから、入学希望者は入学時に簡単な学力審査を受けて、所属するクラスを指定されたのです。誰でも入学当初は初級のクラスから始めるという仕組みも発想もそこにはなかったのです。(続く)

読み方・綴り方	
1.	A,B,C
2.	2文字やa,bなど
3.	3文字
4.	4文字
5.	5ないし6文字
6.	新約聖書
7.	旧約聖書
8.	ペストリーダーからの抜粋
計 算	
1.	数字の組み合わせ
2.	足し算
3.	複数の足し算
4.	引き算
5.	複数の引き算
6.	掛け算
7.	複数の掛け算
8.	割り算
9.	複数の割り算
10.	約分
11.	三角法
12.	練習

クラス分け表



モニトリアル・システムの教場

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

5月 12・26日(毎日曜日)

6月 1・8・15・22日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (5月5・19日、6月29日は休館です)

明治維新150周年記念 協賛企画 第2弾 協力 町田市立自由民権資料館

第78回
カルチャーセミナー

明治10年代の武相地域に 自由民権運動は何をもたらしたのか

第1日目が延期となり、ご迷惑をおかけしておりましたが、再日程が決定いたしました。

明治という時代は、日本が欧米諸国の攻勢からいかに独立を維持していくか、悪戦苦闘しつつ、次第にその実現を確実にしていった時代でした。そうした中で、イギリス型の立憲主義の実現をめざした自由民権運動は、議会政治の定着に一定の成果をあげました。武相地域がこの運動にどうかかわったかについて、町田市立自由民権資料館の学芸員の皆様にお話しいただく3週連続講演の、延期になっておりました第1日目です。(第2日目、3日目は1月に終了しております。)

再
日
程

日 時 : 5月26日(日) 午後1時30分～3時30分

講 師 : 松崎稔氏(町田市立自由民権資料館学芸員)

会 場 : 柿生郷土史料館特別展示室

テーマ : 武相の民権運動とその特徴

第80回
カルチャーセミナー

テレビ・新聞報道のオモテとウラ ～ 3億円事件報道を手掛かりに ～

脚本家、作家、そして1960年代後半からの主要な事件のほとんどを現場で取材した事件記者として著名な講師の多様な経験の中から、平塚八兵衛捜査主任を夜討ち朝駆けで取材した経験を持つ「3億円事件」を取り上げ、マスコミの事件報道のオモテとウラを縦横に語っていただきます。

講師の著書には『誰も知らない死刑の裏側』(二見文庫)、『捜査一課 謎の殺人事件簿』(二見文庫)などがあります。

日時 : 6月8日(土) 午後1時30分～3時30分

講師 : 近藤昭二氏(ジャーナリスト)

会場 : 柿生郷土史料館特別展示室

第16回 特別企画展

「くらしの窓」に見る柿生地区の今昔 その4 ～ 平成前期 ～

昭和30年創刊の地域のミニコミ誌「くらしの窓」が捉えてきた地域の姿を紹介してまいりましたが、今回は昭和の終わりから、平成前期を中心に、人口急増期の地元の変貌の過程を紹介できればと考えています。

期間 2月16日(土)～6月15日(土) 会場 柿生郷土史料館特別展示室

柿生郷土史料館友の会へのお誘い

柿生郷土史料館では友の会への入会を常時受け付けております。手作り史料館に参画しませんか。会員には「柿生文化」の送付や各種イベントへの優先受付などの特典を用意しております。この機会にぜひ入会をご検討ください。

詳細は直接当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。